

ICRC（赤十字国際委員会）イラク紛争犠牲者救援事業に参加して

国際医療救援部 渡瀬 淳一郎

2017年2月20日より3月25日まで、イラクの北東部における医療支援事業にER医（救命救急室医師）として派遣されました。

イラクでは、昨年後半より、イラク第2の都市、モスルで断続的に戦闘が行われており、これに伴い、多数の戦争傷病者が発生しています。赤十字はこの状況に対応するため、赤十字国際委員会（ICRC）が各国赤十字社から医療職員を召集して緊急派遣チームを編成、モスルから60km東に位置するエルビルの外傷専門病院に専用病棟を確保し、戦傷外科治療を行っています。モスルの犠牲者のほとんどは一般市民で、家族ごと爆弾の爆発で受傷するケースが多く、体にたくさんの破片を浴びて、運ばれてきます。子供とともに爆発にまきこまれた、ある母親に聞くと、夫と他の子供2人を爆発で失くしたとのこと、その他にも、背中を狙撃され、下半身不随になった女の子や、片方の眼球を失った男の子など、あまりに悲惨な状況に言葉を失いました。

そんな中、モスルの自宅で受傷した7人家族が運ばれてきました。家に爆弾が落ちると同時に真っ黒な液体が体に降りかかり、やけどを負い、呼吸困難症状を訴えています。化学爆弾が疑われました。WHOによる除染活動の後、懸命の手当を続けました。幸い、皆、快方に向かい3週間で退院していきました。最初、私を怯える目つきで見ていた子供さんたちが、退院前には笑顔を見せてくれて、私はとても安堵しました。

尚、ICRCは、6月初旬現在、状況が落ち着いてきたモスル市内での活動のための準備を行っています。

世界にはこの瞬間にも、紛争などで苦しんでいる人々が大勢いらっしゃいます。そのような方々に寄り添うために、150年前に赤十字はつくられました。

イラク、シリアに限らず、現在の中東には様々な人道的問題が山積みです。赤十字の一員として、これからも彼の地の情勢に注意を払ってまいりたいと思います。

常日頃から、赤十字の国際支援活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

写真



病院外観



ER 看護師とレントゲンを見る。多国籍チームでの仕事にはコミュニケーションがとても大切です。



化学兵器損傷の患者さんの診察をする。



傷病者の方々が何とか元気になってくださいました。